

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学 I		講義	荒川 高光	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
60 時間 (2 単位)		30 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
解剖学では、人体の構造を学ぶ。理学療法士を目指すみなさんにとって解剖学は、今後の学習の基盤となる学問である。理学療法士にとって重要な骨、関節、筋、神経系はもちろん、他の器官もまんべんなく、マクロレベルからミクロレベルに至るまで全てを網羅した知識としなければ患者を全人間的に把握することは不可能である。全身の解剖学を知り、理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
全身の人体の解剖学を理解し、説明できることができる。解剖学が今後の理学療法学にどのようにつながっていくのかを考えながら応用することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	人体の概要, 身体の区分, 解剖学的表現法と運動の表現	16	消化器系: 肝臓・胆嚢・膵臓	
2	細胞	17	循環器系総論・血管の構造	
3	組織学総論、上皮組織	18	循環器系: 心臓	
4	支持組織	19	循環器系: 心臓II	
5	骨学総論	20	循環器系: 動脈	
6	関節・靭帯学総論	21	循環器系: 動脈II	
7	骨学・関節学: 頭部・体幹	22	循環器系: 静脈	
8	骨学・関節学: 上肢	23	循環器系: リンパ	
9	骨学・関節学: 下肢	24	呼吸器系: 上気道	
10	筋学総論・筋組織	25	呼吸器系: 下気道	
11	筋学: 体幹・上肢帯	26	内分泌器	
12	筋学: 自由上肢	27	泌尿器	
13	筋学: 下肢帯・自由下肢	28	男性生殖器	
14	消化器系: 口・咽頭・味覚器・食道	29	女性生殖器	
15	消化器系: 胃・小腸・大腸	30	神経系総論・神経組織	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	20%			
レポート・課題				
小テスト	80%			
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載	授業資料を製本したものを使用する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				